
剣 ~ツルギ~

聖風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

剣～ツルギ～

【Zマーク】

Z5677D

【作者名】

聖風

【あらすじ】

武器は悪くない。それを伝えるために書きおしました。一度、読んでみてください。

俺は剣。ツルギ

純粋に人を殺す為に作られた『武器』。

でも、その武器にも心がある。

俺はある一人の剣士の為に作られた。

その剣士の名は「シルフ」と言った。

それから、俺はそいつに付き従つた。

無論、俺が反抗なんて出来なかつたから。

『人間』は俺に心があるなんて知らない。

そして、シルフは俺を携え『戦場』という場所へ赴いた。

『戦場』は俺等の仕事場。

そして、自分の主人が力量を試す場。

シルフはそこで、鬼神の如く『人間』を俺で斬つていった。

10人、100人、1000人…

気が付けば、『戦場』で生きているのは俺とシルフだけだった。

他の武器は折れたりしていた。

そして俺は、大量の血を浴びていた。

それは、シルフもだつた。

シルフは俺にささやいた。

「ありがとう。お前のおかげで俺は生きている。」

確かに、俺は人を斬つたが、そこに俺の意志は無い。

シルフが俺を振るい、人を斬つた。

俺は、人など斬りたくなかつたのに。

それからも、シルフは人を斬り続けた。

ひたすら強さを求めて。

その度に俺は血を浴び、欠けていった。

そして、俺はそれにガマンできなくなつた。

俺は、自分がシルフを殺したいと願うようになつた。

そして、それは叶つた。

ある日、シルフはいつもの様に俺を携え、戦場へと向かつた。

人は出陣するシルフを見るなり「英雄」と呼んだ。

何が英雄だ。コイツは人殺しだ。

俺はそう思つた。

シルフは戦場に着くと、人を斬つていった。

10人、100人、1000人…

そこまで斬つて、立つて『人間』は一人になつた。

シルフはその人間に斬りかかつた。血を大量に浴びた俺で。

しかし、その人間は俺をかわした。

シルフはバランスを崩し、俺の刃先に向かつて倒れてきた。

シルフの心臓に俺が突き刺さった。

シルフは死んだ。

その時、俺はついに折れた。

しかし、俺は満足だつた。

人殺しのシルフを自分が殺したからだ。

でも、何故か悲しくなつた。

そうだ。

俺は俺の意志で人を殺したことは無かつた。

でも、最後に自分の意志で人を殺した。

俺はシルフと同じ『殺人者』だ。

俺はもう生きている資格など無い。

俺は永遠の眠りについた。

(後書き)

剣や銃など、現代では武器が憎まれています。
しかし、武器は悪くありません。
それを作り出し、使う人間が悪いのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5677d/>

剣～ツルギ～

2010年10月11日01時58分発行